



インターアクトクラブによる ロータリーの「6つの重点分野」 重点分野別レポート

ホスト校（集約・編集）

仙台育英学園高等学校インターアクトクラブ

・

2020-2021 年度 国際ロータリー第 2520 地区
青少年奉仕委員会

国際ロータリー第 2520 地区

インターアクトクラブによる重点分野別レポート

〔参加校・参加生徒数一覧〕

参加校名	参加生徒数
① 専修大学北上高等学校 IAC	1 名
② 花泉高等学校 IAC	1 名
③ 大船渡東高等学校 IAC	3 名
④ 迫桜高等学校 IAC	3 名
⑤ 常盤木学園高等学校 IAC	1 名
⑥ 仙台育英学園高等学校 IAC	28 名
⑦ 明成高等学校 IAC	11 名
⑧ 聖和学園高等学校 IAC	6 名
⑨ 花巻東高等学校 IAC	1 名
⑩ 花巻農業高等学校 IAC	1 名
計 10 校	計 56 名

※1 本文中の赤字脚注①～⑩は、表中の高校番号①～⑩と対応しています(順不同)

※2 参加生徒名一覧につきましては、別途ご参照ください。

〔目次〕

I． 重点分野別レポート

- a.平和と紛争予防／紛争解決・・・・・・・・・・・・・・・・P.1
- b.疾病予防と治療・・・・・・・・・・・・・・・・(P.4)
- c.水と衛生設備・・・・・・・・・・・・・・・・P.5
- d.母子の健康・・・・・・・・・・・・・・・・P.7
- e.基本的教育と識字率向上・・・・・・・・・・・・・・・・P.9
- f.経済と地域社会の発展・・・・・・・・・・・・・・・・P.13

II． 重点分野間の関係性について・・・P.14

I. 重点分野別レポート

a. 平和と紛争予防／紛争解決 (②, ⑨, ⑩)

◎ 世界の現状

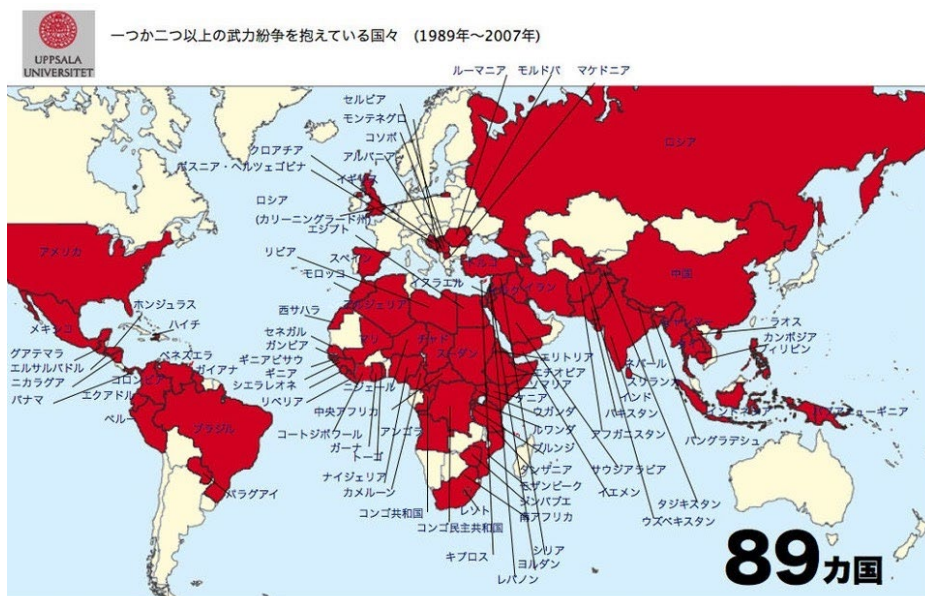
< 紛争により直接生じる問題 >

性別、宗教、価値観の違いなどが原因となり、世界では現在も絶えず紛争が起きている⑩。

その紛争により、多くの死傷者、難民が発生し、多くの人が苦しんでいる。

データで見る紛争②⑨

- ・ 2018 年、紛争や迫害を逃れ、家を追われた人は 7080 万人で過去最多である。
- ・ 毎年 2 万人が地雷によって手足を奪われている。
- ・ 紛争で命を落とした犠牲者の 90% が一般市民で、そのうち少なくとも半数が子供である。
- ・ 世界で 18 歳未満の子供 30 万人が少年兵として紛争に巻き込まれていると言われている。
- ・ 主な難民の出身国はシリア、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマー、ソマリアで全体の 67% を占める。
- ・ 1989 年～2007 年の間で 1 つ以上の武力紛争を抱えた国↓⑨



武力紛争の定義： 少なくとも一方は国家政府である二つの勢力間で武力使用を伴う、25人以上の死者を出している、政府や領土に関する不一致のための争いのこと。

出典： Uppsala Conflict Data Program (Date of retrieval: 2009/10/01) UCDP Database: www.ucdp.uu.se/database, Uppsala University©2008

紛争に苦しむ国や地域の例②⑨

・ コンゴ共和国

過去何度かにわたり紛争が起きており、1990年にはワンダの内紛、1994年にはワンダ大虐殺などがある。金や銅、木材、ダイヤモンドなどの豊富な天然資源、国内情勢の不安定さが長期にわたる紛争の原因であり、民間人の無差別な拷問や虐殺、性的暴行が問題となっている。

・ 中央アフリカ

2013年に起こったボジゼ政権打倒のための侵攻から内戦が勃発。何年にもわたり国内情勢が不安定だったなか、2017年5月に武装グループ間での新たな紛争へと発展。特に北西部での戦闘が激化し、多くの被害者が出る結果となった。現在もこの紛争は継続されており、中央アフリカから近隣国へ避難している難民や国内で避難せざるをえない人が多数いる。

・ 南スーダン

紛争が続いており、何年もの間子供たちを悲惨な現状に追い込んでいる。紛争が始まってから4年たった2017年の報告書では、「2300人以上の子供が死傷し、何百人もの子供に対する強姦や性的暴行の事例が報告された」と書かれている。それ以外にも、1万9000人以上の子供が武装勢力や武装グループに徴用、徴兵されているとみられる。

難民を多く受け入れている国②

世界全体で見ると、難民を多く受け入れている国は2017年時点でトルコが350万人と最も多く、続いてウガンダ共和国とパキスタンが140万人、レバノン99万8900人、イラン97万9400人となる。ウガンダは周辺国からの難民を多く受け入れており、アフリカ最大規模の難民受け入れ国である。

<他方で生じる問題>

前述の“1 つ以上の武力紛争を抱えた国“を踏まえ、幸福度ランキングを以下に参照する⑨。

「国別幸福度ランキング」

1 位.フィンランド	11 位.カナダ
2 位.デンマーク	12 位.オーストリア
3 位.スイス	13 位.英国
4 位.アイスランド	14 位.イスラエル
5 位.ノルウェー	15 位.コスタリカ
6 位.オランダ	16 位.アイルランド
7 位.スウェーデン	17 位.ドイツ
8 位.ニュージーランド	18 位.米国
9 位.オーストリア	19 位.チェコ
10 位.ルクセンブルク	20 位.ベルギー

内戦を抱えていて幸福度が高いと国民が感じている国はないことが分かる。

→平和でなければ幸福を感じることはできない。これを噛み砕いて逆の意味にすると、争いや戦争がなくなれば幸福を感じる。⇒本当にそうなのか？

命と教育と平和の関係⑨

・世界には教育を受けられていない子供が 6,100 万人いると言われており、その半数以上がアフリカの子供達と言われている。

・日本では中学校まで教育を「受けなくてはならない」

⇔ アフリカでは学校に行きたくても行けない

・アフリカでは文字を認識できない人が半数以上ある国もある。

例) 医薬品の取り扱いや摂取の仕方について、字が読めないために間違った使い方をして命を落としてしまう

[原因]

1. 子供の数に対して学校の数が足りない。
2. 学校に行くお金がない。
3. 安全に通うことができない。
4. 女の子だから。

これらの理由で子供の頃に教育を受けられなかった人々が教育の大切さを知らずに親となり、自分の子に教育を受けさせることもないという悪循環を生む。

◎私たちにできること

○募金②

- ・継続募金…毎日同じ金額を寄付し続けるもので、500 円や 1000 円などの少額から支援することが可能
- ・都度の寄付…一人ひとりの少額の寄付が集まれば大きな金額となり、栄養食やワクチンなどの必要な物資に変えることができる
- ・遺贈や遺言による寄付…民法が定める法定相続の規定よりも優先されるため、自身の意思に沿った財産を配分することが可能

○寄付⑨

- ・教育を受けるための道具、教育を受けるための環境
 - ※1—1000 円で 25 人の乳幼児に命を守る食料を届ける事ができる
 - ※2—5000 円で子供ひとりの 1 年間分の給食を届ける事ができる

例) ブルギナファソと支援団体

3 歳から 16 歳までの公立学校にかかるお金を無償化し、大幅に修学状況を改善。

b.疾病予防と治療

…該当レポートなし

c. 水と衛生設備 (④, ⑤, ⑧)

◎ 世界の現状

データで見る水と衛生⑤

- 池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいる人：6 億 6,300 万人
- 水汲みに従事し、通学の時間・体力がない子ども：アフリカ諸国だけで 330 万人以上
- 世界中の女性が水汲みに費やす 1 日あたりの総計：2 億時間
- 汚れた水が原因とされる病で命を落とす乳幼児：年間 30 万人、毎日 800 人以上

※汚れた水で命を落とす乳幼児は毎日 5000 人というレポートも⑧

※水質汚濁は有機汚濁、富栄養化、有害物質の 3 つの種類に分けられる⑧

- マラリアで亡くなった大人：推定 43 万 5000 人以上（2017 年）

飢餓との関連性⑧

エルニーニョ現象に起因すると思われる干ばつが食料不足を招く場合もある。
→食品ロス問題の見直しが急がれる。

水環境に苦しむ国や地域の例

○フィリピン⑤ ※実際に現地で目の当たりにしたこと

- 深刻な水不足（インフラ整備の遅れ、ダム貯水量の減少が原因）
- 地下水の保全、地表水利用の促進、洪水システムの導入など行う
- 1 つの地域で大きなタンクの水を使用していて、雨が降らないと水不足
- トイレトペーパーはゴミ箱に捨てる
- 日本との上下水道の整備の差
- このままだと水や衛生が原因で亡くなる人が増加する懸念も

◎私たちにできること

○台風被害への支援活動などを活かす④

○十分な量で安全な水の確保の支援する必要がある

○経済面だけではなく、高度な技術で支援⑧することも大切

○現状を知り、募金や授業で扱う⑧

○衛生環境が悪いところの人材育成、雇用

○衛生の大切さを学ぶ機会を設け、理解を進める

○法整備（水質汚濁防止法などの規制法）に向けた啓蒙活動

○生物に害を及ぼす薬品を使わないようにし、無添加なものを選ぶ

○食用油リサイクルの活用

○川や海にゴミを捨てない、レジャーゴミは持ちかえる

⑤

⑧

d. 母子の健康 (⑧) ※選択は1校のみ、関連性を指摘したかたちのため他所と重複あり

◎世界の現状

水質汚染や飢餓問題など、様々な問題が重なり合って母子の健康を脅かしている。
現在、世界では一分間に17人の人々がなくなっており、そのうち12人は子供である。
免疫力が少ない子供は、汚染された水や食料の不足による栄養失調により命を落としてしまう。また、いまだに世界では8億2100万人の人々が毎晩空腹を抱えたまま眠りについており、3人に1人が何らかの栄養失調に苦しんでいる。
水質汚染による子供への影響は特に大きく、新生児は体の約76%が水分であることから、多くの飲み水を必要としており、水の重要性は特に大きい。安全な水を飲めず毎日5000人の子供が命を落としている。

実際に行われている活動

母子の健康は何か一つの要因だけで引き起っている問題ではなく、様々な問題が重なり合って一つの大きな問題となっている。

○飢餓問題に対する活動

<世界>

- 募金活動(企業や団体が継続的に寄付を行う)
- 飢餓をなくすための教育の支援

<国内>

- 募金活動
- 放課後教室
- 子ども食堂

○水質汚染問題に対する活動

- 安全な飲料水の確保のための機材の支援(ろ過器、ポンプ、浄水器など)
- 現地住民との井戸の建設
- ソーラーパワーや重力を利用した簡易水道設備の建設
- 学校に向けて飲料水用の浄水フィルターの配布

◎私たちにできること

- ・ 企業や団体が行っている募金活動への参加
- ・ フードロスがなくす(食品を使い切る、食べ残しをしない)
- ・ 生物に害のある薬品を使用している製品を使わないようにする
- ・ 合成洗剤は使用せず、環境にやさしい無添加洗濯石鹼を使う
- ・ 料理に使用した油は排水溝に流さず、食用油リサイクルに出す
- ・ 料理は人数分だけ作り、食べ残しがないように心がける
- ・ 川や海にごみを捨てない。レジヤーなどで出たごみは必ず持ち帰る。

e. 基本的教育と識字率向上 (①, ⑥, ⑦, ⑧) ※全体が⑥ベースとなっている

◎ 世界の現状

データで見る教育環境の問題

- 世界で学校に通えていない子供や若者：約 3 億 300 万人
- 識字力のない子供や若者：約 6.1 億人 (15 歳以上：約 7 億 7500 万人＝成人の 17%①)
 - ※特に、サハラ以南のアフリカ：約 3400 万人 (←小学生の半数)
 - 南アジア：約 990 万人
- 世界の児童労働者数：約 1 億 6800 万人

●課題例 ストリートチルドレン…実態は多様 (以下を参照)

- ・家がなく、家族からの支援もない子ども。
- ・定期的に家に帰るが、ほとんどの時間を路上で過ごす子供
- ・家族自体がホームレスで、家族とともに路上で生活している子供
- ・保護されているが、路上生活に舞い戻る可能性のある子供

[影響]：十分な栄養を摂取できない、教育を受けることができない、感染症の蔓延、生きていくための厳しい労働、エイズ・薬物中毒・性的暴行・人身売買・警察当局からの取り締まりによる暴行

→安定した職に就けず①、犯罪や薬物常習犯となってしまう可能性も高い

教育を受けないことで社会秩序の欠如によって暴動や戦争が起きやすくなったり、生命の価値を低くとらえてしまうことで命を守ることを大事としなかったりと様々な問題が生じる。よって、教育を受けることは貧困や戦争を食い止めることに繋がると言える。

◎教育が受けられない理由、それに対するアプローチ例

- 児童労働（家事、子育て、水汲みなど）
→就業最低年齢を下回る年齢の児童によって行われる労働
[原因] 貧困、差別、戦争や自然災害、HIV・エイズによる社会の混乱など
- 学校や教師、教材の不足（教育の質が悪い） →学校建設、教師の育成など
- 教育の重要性に対する理解不足 →啓蒙活動、環境の根本的な改善等
- 貧困 →給食の配布（それ目的で親が登校させる場合も）
- 紛争、戦争（それによる格差など） →通学路の安全確保など
- 男女差別 →女学校の建設など

◎世界における具体的な取り組み

- Education Cannot Wait： 質の高い教育の提供
- マララ基金： 女兒への差別のない世の中へ
- セーブ・ザ・チルドレン
- ACE 募金
- チョコ募金
- コットン募金
- グットネーバースジャパン： （月 ¥ 1000～）
- 青年海外協力隊
- 世界寺子屋運動： 年齢・性別・宗教に関わらず全ての人が公平に学べる場を作る

◎今求められていること

▶誰でも受けられる高品質な教育環境の徹底

[影響] 良い仕事に就くことができる、社会の成り立ちを理解し、秩序を構築できる

今、途上国に必要なものは、一人一人が自立するための教育環境を整備することではないか。

→コロナ禍のような事態にも、オンライン支援なら途切れるリスクが低いのではないか

◎私たちにできること

- 寄付・募金活動、またはそのブースの設置
 - 世界の教育の現状・支援の必要性を知る、知らせる
 - ※その機会としての放課後教室、ボランティアによる子ども食堂の重要性⑧
 - ※国際理解のための文化交流活動を行っている IAC の報告あり⑦
 - フェアトレード商品の購入
 - ※地域経済の発展を視野に教育機会の充実を図っている IAC の報告あり⑦
 - 売上が ACE への寄付になるグッズの購入
 - ユネスコも切手の寄贈などを通じて支援を行っている
- 呼びかけて大勢の人に協力してもらうことが重要

◎提言

I. 教育に関する問題への支援の情報を広めよう

- 世界青年奉仕デー、世界インターアクト週間など、国際ロータリークラブが提唱するイベントに準じた地区内活動週間の設定など、地区内インターアクトクラブの活動活性化を図る。
- テレビ CM、紙面・ネット広告などの活用
- SNS を用いて情報を拡散する（有名インフルエンサーの起用等）

II. 従来の RC による各地への識字指導をオンライン上でも行えるシステム構築を目指す

支援の輪を広げても、現地が追いつかない可能性がある。

▶教育活動を支えているものは何か？ →識字率の向上

ロータリークラブ*では、独自の奨学金制度や教員への研修を成人の識字率向上のために行っている。日本では義務教育が徹底されているため、成人の識字率は限りなく 100% に近く、誰もが教育を受ける機会が与えられている①。（*レポート①の原文ではインターアクト）

しかし、規模を世界に移してみると、データでも示した通り、読み書きのできない 15 歳以上の人の数は約 7 億 7500 人で、成人の 17% の割合に及ぶ。字の読み書きができないと日常生活で非常に不便である上、就くことができる仕事も限られてくる。字の読み書きができないだけで人々の選択肢は大きく狭まってしまう。

ただ現在、感染症の影響により、安易に海外へ渡航することが困難。

→オンラインでの識字指導環境を整えることで、どんな状況でも継続的に識字指導を行うことが可能となるのではないか？

オンライン識字指導に必要なこと

- オンライン指導のためのツールの支給（パソコン、タブレットなど）
- 指導員の確保→既にこの活動は行われているものの、不足も懸念
- 電源、ネット環境の整備
- 指導システムの開発・修正→既存のものを使うか、年代・エリア別で方法を変えるか等
- 地方独自の言語、表現方法への配慮

インターアクトクラブとしてできること

I. 教育に関する問題の現状を広めるために…

- ポスターの作成、校内・地域への掲示
- 校内、または地域でフェアトレード商品及びグッズの販売
- 校内、または地域が募金・寄付活動の拠点となる

II. オンラインでの識字指導環境の整備に向けて…

- 活動の宣伝を行う（複数の IAC で同時展開すれば加速も期待される）
- ツールを支給するための募金活動を行い、ロータリークラブへ寄付を行う

◎展望

途上国の教育水準が向上すれば、支援の際に構築されたオンラインシステムを活用して、世界各地の文化的交流も促進される。そして、インターアクターの教育の充実にもつながることが期待される。

f. 経済と地域社会の発展 (③) ※選択は1校のみ

◎世界の現状

絶対的貧困者数：7億3600万人（世界人口の10人に1人） 約8億人

貧困に苦しんでいる国：146か国（全世界の国の74%）

貧困の影響

○健康面…栄養不良

→食料を買うお金がない， お金のために食物を売る， 医療アクセスの低下

○教育面…「勉強」より「勤労」

→近くに学校がない， 親から教育の大切さを教わることが少ない

★貧困の根本的な解決に不可欠なものは何か →財政健全化

◎世界における具体的な取り組み

○持続可能な開発目標（SDGs）の1つに

「貧困をなくそう：あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」がある。

○食糧の支給や農作物栽培法を教える

○教育環境の整備

○教育の重要性を現地の人々に教える

◎ロータリークラブによる活動例

○小口融資プログラムを開始できるよう、金融リテラシーの研修を実施（グアテマラ）

○裁縫、パン焼き、配管、マイクロクレジット、経営管理、リーダーシップに関する研修を実施（エクアドル）

○土壌の肥沃化、土壌浸食防止、農作物出荷のためのスキルを伝授（西カメルーン）

◎私たちにできること

貧困問題の解決に関する募金・寄付へ意識を向け、よく理解し、人に伝えること。

例えば、募金活動をして貧困地域に寄付をしたり、みんなで集まった時に問題について話し合っ
て考えを深め、それらを共有したりすることで、支援の輪が広がると考える。

II. 重点分野間の関係性について

●聖和学園高等学校

【水と衛生設備×基本的教育と識字率向上×母子の健康】

水質汚染・飢餓問題・教育の機会の確保が行われないことで、そこで生活している弱者、すなわち母子の健康が著しく損なわれている。危険な水を飲み、満足な食事をせず、働き手の確保のために子供を産む、満足な教育を受けることができずまっとうな仕事ができない、貧困になる、という負のサイクルが出来上がっていることを指摘している。

●常盤木学園高等学校

【水と衛生設備×母子の健康×経済と地域社会の発展】

サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、330 万人以上の子供たちが、水の重さに耐えながら、遠い道のりを毎日歩き続けている。そのため、子供たちには学校に通う時間も体力も残っていない。（世界中の女の子や女性たちが水汲みに費やす 1 日あたりの時間の総計 2 億時間）

汚れた水が主な原因とされている下痢やマラリア、肺炎で命を落とす乳幼児は、年々減ってはいるが、今でも年間 30 万人、毎日 800 人以上にものぼっている。一方、大人の場合は 2017 年時点で推定 43 万 5 0 0 0 人程がマラリアを原因として亡くなっている。

問題の改善が進んでいない原因のひとつは、リゾート地などの観光客が多い場所ばかりが発展し、それ以外の場所にはお金がないという地域レベルの貧富の差である。日本のような先進国は発展途上国に経済面だけではなく、高度な技術で支援することも大切だと考える。加えて、支援団体からの経済的、技術的支援が進むことで、設備の改善、現地の人材育成や雇用を生むことにもつながると指摘している。

●花巻東高等学校

【平和と紛争予防/紛争解決×基本的教育と識字率向上】

子供の頃に紛争などによって教育を受けられなかった人々が、教育の大切さを知らずに親となり、自分の子に教育を受けさせることもない。この悪循環がアフリカでは起きている。教育の改善が争いをなくし、差別をなくし、貧困を無くし、平和をもたらし、幸福をもたらすのではないかと指摘している。

●岩手県立大船渡東高等学校

【基本的教育と識字率向上×母子の健康×経済と地域社会の発展】

貧困は健康面および教育面において多大な影響があるとされている。

健康面では具体的に栄養不良があげられる。貧しく余裕のない生活のため、肉や野菜、果物を買うことが少なく、また商品作物として育てたものを売ってしまう習慣があるため、栄養不良が大きな問題となっている。また、国の資金不足によって、病院や医療従事者へ投資するのが難しく、そのため近くに病院や医者がおらず、医療のアクセス低下につながっている。

教育面では、例えば、保護者が貧しいために、子供を学校に通わせるよりも、労働させることを優先してしまい、教育機会が奪われることがある。さらに、親が教育を十分に受けていないことから、教育の大切さを実感できず、子供を進んで学校に通わせられないという問題もある。国が貧しいために学校が近くにない、学校はあっても教室や備品が足りないなどの問題がある。また、教師が適切なトレーニングを受けていなかったり教科書の情報が古かったりなど様々な教育環境の問題もある。国を経済的に発展させるためには人材育成が欠かせないが、そのための根本的な初等教育の発展には財政が必要な状況であるというジレンマを指摘している。

(各校レポート集約)

仙台育英学園インターアクトクラブ有志一同

——このような貴重な機会をいただき、皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。